

本事業に取り組むエリア(自治体名)	札幌市中央区	
本事業の実施主体	札幌市中央区在宅ケア連絡会	
本事業に参画する団体名	札幌市中央区在宅ケア連絡会	
地域の状況	①人口	250,000
	②地域の特徴	札幌市の中心部のみならず、北海道の中心部となっている。大きな商業圏や駅などがある一方で河川や山などが存在している。人口は今後もしばらく増加傾向にあり、特に北海道内からの高齢者の流入が多くなっていくと言われている。高齢者住宅や施設、医療機関も多くある。
	③災害等の歴史	直近ではブラックアウトと新型コロナウイルス感染症が災害としては考えられる。ブラックアウトでは各在宅医や在宅ケア関係者がそれぞれ災害対応を行った。組織化して対応はできておらず地域BCPの必要性を多くの在宅ケア関係者が認識できる機会となった。新型コロナウイルス感染症では、在宅ケア連絡会を中心に講演やグループワークをコロナ禍にも行うことで地域一体となって取り組んで北歴史がある。
	④在宅医療ケア資源と病院等との連携	在宅ケア連絡会には病院関係者も入っており、上記ブラックアウトや新型コロナウイルス感染症対策においても災害において在宅ケアが重要な要素である共通の認識が形成されている。特に在宅ケア連絡会を通して、病院と在宅ケアの連携をテーマに掲げている。
	⑤その他特記事項	新型コロナウイルス感染症対策においては、在宅ケア関係者と保健所や介護保険課との連携が強化されてきたところであった。第8次医療計画においては、さっぽろ医療計画を並行して策定中であるが、災害対策に地域BCPの策定を項目として入れるように働きかけている。
地域の課題	①これまでの被災経験・コロナ対応で特筆すべきこと	ブラックアウトの経験は札幌市在宅医療協議会で報告をまとめた。また新型コロナウイルス感染症対応は日本在宅医療連合学会誌を通して公表されている。
	②連携型BCP・地域BCPとして考えるようになった理由	全国的にも大都市部において、地域BCPが本格的に考えられている状況にはない。行政や医師会が主体となるのではなく、本会のように在宅ケア関係者が自主的に集まっている横並びの組織において、地域BCPを策定できるかどうかをモデルとして行ってみたい。
	③わが地域のBCP観点からの課題	大都市部の病院や在宅ケアはそれぞれが独立した事業所として一体感がないことが特徴であるといえる。そこが課題であり、そのような中でこそ地域BCPを策定する価値がある。
	④その他特記事項	
取り組み内容と目標 今年度のプラン	1) BCP見せあっこ会の開催 ・2023年10月に各事業所が作成したBCPを持ち寄り、情報交換とともに、地域における課題を抽出する。 ・特に、ブラックアウトの経験や、コロナ対応から、電源確保、要介護者対応、人員確保は地域BCPで考えていきたい。 2) 地域BCP策定のためのワークショップ開催 ・2024年2月に地域で抽出した課題に対する解決の進捗報告を行う。 ・札幌市中央区版在宅ケア地域BCP仮モデルを用いたシミュレーション訓練を行う。 3) 地域BCP策定 ・シミュレーション訓練の結果をもとに、緩やかな地域BCPのルールを作り、A4両面1枚にまとめ、配布する。	